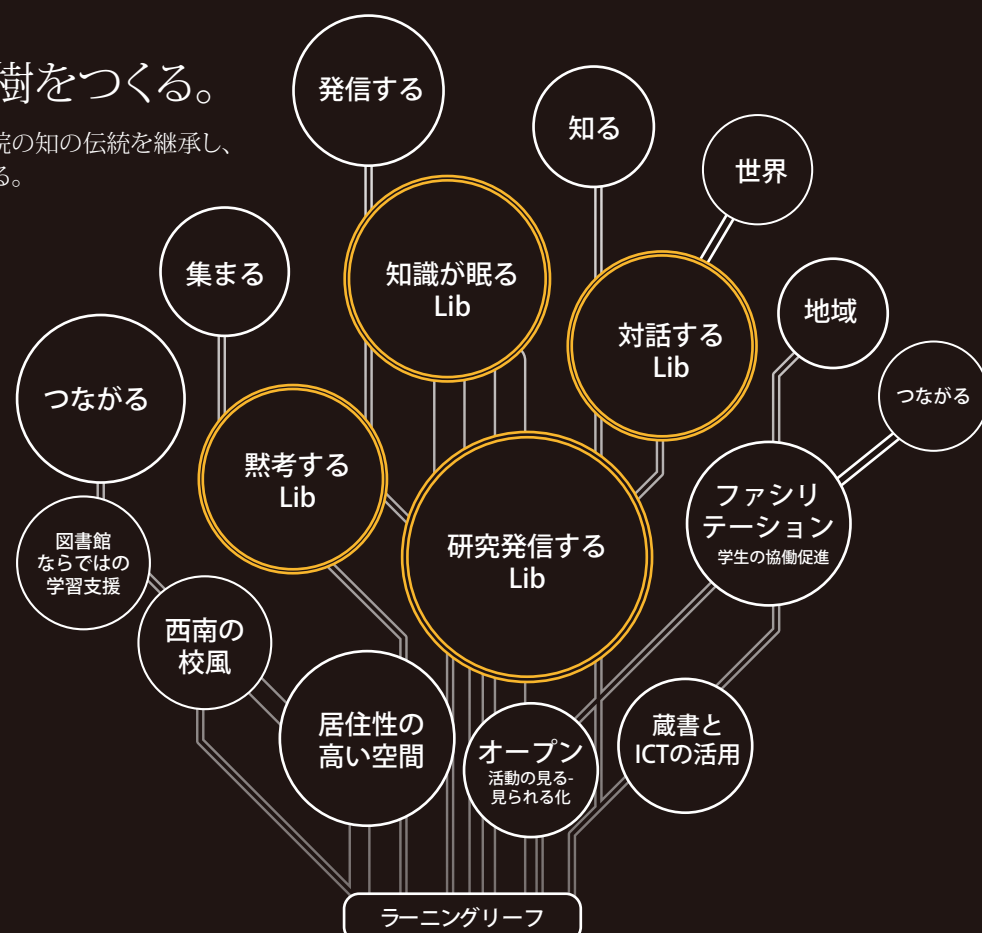


西南の知の樹をつくる。

ブックツリーが西南学院の知の伝統を継承し、自ら考える学生を育てる。



主要施設

サイレントゾーン	7F	自動書庫
	6F	図書(産業・芸術・言語・文学)／マイクロフィルム／貴重書庫
	5F	図書(社会科学・自然科学・技術)
	4F	図書(哲学・歴史)／学術雑誌／自動書庫出納ステーション
アクティブゾーン	3F	図書(総記)／視聴覚資料／SAINSルーム(PC125台)／情報検索室(PC35台)／視聴ブース(16席)
	2F	図書(神学関係)／ラーニングサポートデスク／グループ学習室(30名用:2室、15名用:4室、8名用:4室)
	1F	図書(ベストセラー)／一般雑誌／新聞／総合カウンター／自動書庫出納ステーション／多目的ホール(約100席)／ディスカッションエリア／プレゼンテーションエリア／ライブラリーカフェ

建築概要

建物名称	： 西南学院大学図書館	開 館	： 2017年4月
所 在 地	： 福岡市早良区西新6丁目2番92号	設計管理	： 株式会社佐藤総合計画
規 模	： 地上7階建	施 工	： 松尾建設株式会社
述床面積	： 11,715.21㎡	収蔵能力	： 約180万冊(うち自動書庫約80万冊)
工 期	： 着工 2015年5月 竣工 2016年9月	閲覧座席数	： 約1,170席



SEINAN GAKUIN UNIVERSITY LIBRARY

西南学院大学図書館





学修・研究・保存の機能を強化した情報空間

能動的学修と創造的対話を促進する交流空間

知的刺激と想像力の解放を求めて集う遊戯空間

過去を学び、現在を見つめ、未来を描く歴史空間

BASIC CONCEPT



『新図書館の設計要旨』

「知のシンボル」としての 西南学院大学図書館



西南学院大学新図書館は、福岡の文教拠点である西新地区とキャンパスとの結節点として、この新図書館が福岡の新しいシンボルとなり学術・文化拠点となることを意図しました。

新図書館は、建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」の理念に基づき、地域・キャン

パスと建築が融合し、学生たちがこれまでにない知的創造活動を発信する場です。そのために新図書館を「西南の知の樹」として樹木のような構成とし、中心に知識の幹である「ブックツリー」という縦動線、周囲は成長する枝葉としての「ラーニングリーフ」という多様な学生の学びの空間が、全く新しい「考える学生を創造する場」を創り出します。

外観は、レンガのデザインコードがキャンパス景観との調和を生むと同時に、レンガの

外壁全体を透かすことにより、キャンパスと地域の活動や風景につながりをもたせる柔らかな表情をつくりました。

またレンガを透かした積み方（レンガトレサリー）が、本を積層させた表情を彷彿させることで新しい図書館のイメージを醸し出し、遮光・断熱に寄与する機能性と共に環境と共生する新たなランドマークを生み出します。

一方内部は、ブックツリーという外部とは全く違う“黒”の空間。6層吹抜空間を階段が

つなぐ空間に隙間なく配された書籍の存在が、利用者へ「図書館」のもつ倫理観や「本」自体が宿す世界観を視覚的に伝達します。このアカデミックで落ち着いた空間は、知のシンボルとして人々に学修意欲を刺激させ、考える学生を創造する場となります。

この外部、内部の建築の作り方が「知のシンボル」としての図書館を成立させ、キャンパスに広がる豊かな樹木のように「西南の知の樹」である図書館が成長し、福岡の知と創

造のコア（頭脳）として大学・学生と街全体の質が向上する核となることを意図します。

心のシンボルとしてのチャペル、知のシンボルとしての新図書館、この両輪が西南学院における真理追究の場です。情報を見つける場から情報をセレクトし真理を見つけるための手助けをする場へ変化するこれからの図書館として、人々を自由にしていく、西南学院にしかない新しい図書館となることを願う次第です。

（株式会社 佐藤総合計画）

GREETING



学長
K. J. シャフナー



図書館長
古田 雅 憲

新図書館の開館を記念して

学院が次の100年に向けて歩み始めた記念すべき年に、新たな「大学の顔」として知の拠点になる新図書館を建設することができましたことは、まことに喜ばしく、また感謝にたえないところです。

この新図書館プロジェクトは新図書館建設委員会を中心として作られた最初の計画から、設計、施工と、関係各位の並々ならぬ努力とチームワークによって見事に完成に至ったものです。この計画は多様なニーズに対応し、学生の学びを力強くサポートする体制が備わっています。

図書館は大学にとって教育・研究の中核ですが、あふれるほどの情報に囲まれた現代では、書籍だけではなく、あらゆる情報媒体にアクセスでき、その情報の信頼性を得る必要があります。従って、来館者が情報を入手するうえで大きな助けとなるスタッフやチューデントアシスタント等のサービスは今後新図書館の欠かせない存在となるでしょう。また、しんと静まり返った中で本を読むという従来のスタイルを覆し、ディスカッションしたり、気軽におしゃべりしたりする交流の場として、新たにアクティブ・ラーニング機能を備えたプレゼンテーションエリアやグループ学習室等からなる「ラーニング・コモンズ」の設置によって、知の拠点として新図書館の重要性が益々高まっていくものと期待しています。

最後に、今回の建設のため全力をあげ、心を込めてそれぞれ設計と施工にあたっていただいた株式会社佐藤総合計画と松尾建設株式会社の皆様及びその他の関係者の皆様に心から感謝の意を表しご挨拶とさせていただきます。

これからの大学図書館

待望の新図書館が開館いたしました。当初の計画決定から5年、この建設プロジェクトにご尽力くださったすべての方々に心から御礼を申し上げます。

この間、新図書館のコンセプトや設計に係る企画立案を担った建設委員会では、プロジェクトの開始直後から「これからの大学図書館のありよう」について真摯な議論が重ねられました。

そのなかで「従前の図書館機能をさらに充実させるとともに、近年の教育課題であるアクティブ・ラーニングの実践に資すること」という基本理念が取りまとめられ、それが「静けさと賑わいの共存」という、この図書館に特徴的な空間設計<ゾーニング>として実現しました——高層階<サイレント・ゾーン>は個々人の「読む・調べる・考える」活動の場として静謐を保ちつつ、低層階<アクティブ・ゾーン>は利用者相互の「話す・聞く・考える」活動の場として積極的な交流を促す——これからの大学図書館に求められる「情報発信と交流のための知的拠点」を具現化する試みです。

もちろん、どのような施設・設備であれ、その価値はすべて使う人が創り出すものなのでしょう。この図書館のありとあらゆる<もの・こと>について、利用者各位がご自身の創意工夫によって多様な活用方法を編み出してくださることを心から期待しています。



1

① ディスカッションエリア／広い空間で、自由に議論する空間です。



2



3



4



5

② プレゼンテーションエリア／オープンスペースで、日常の学習成果を発表します。 ③ ブラウジングエリア／少し落ち着いた空間で、閲覧できます。 ④ 視聴ブース／ブルーレイ、DVDを視聴することができます。 ⑤ ラーニングサポートデスク／学習相談員（コンシェルジュ）が各種相談に応じます。

CONCEPT

アクティブゾーン

1 階～3 階はアクティブゾーン。「聞く・見る・話す」というアクティブ・ラーニングの基本的な行為を、学習の重要な行為と位置づけ、学びの交流が起こる空間を目指しています。



ラーニングサポートエリア

ラーニングサポートエリアでは、大学院生や学部上級生の学習相談員（コンシェルジュ）が、様々な学習相談に応じます。情報の探し方、レポートの書き方、プレゼンの方法…、貴重な先輩からのアドバイスを受ける場所です。このエリアでは、自由に議論を行いながら、学習を進めることができます。

ノートPC、タブレット、プロジェクター等も準備しています。館内各所で、自由に利用することができます。



グループ学習室

2階には、合計10室のグループ学習室を配置しています。30名収容の大きな部屋から、8名収容の小さな部屋まで、目的に応じて利用が可能です。予約は、ウェブサイトから行うことができます。入口は、学生証IC対応の電子錠を採用しています。室内には、電子黒板を配置し、ノートPCやタブレットを利用した、グループ学習も可能です。

友人と、ゼミで、サークルで、様々な目的での学習活動が展開されることを期待しています。



グループ学習室



グループ学習室



多目的ホール



国際機関資料室



新聞エリア



ライブラリーカフェ



① 閲覧席／静かな落ち着いた空間です。上の階へ行くほど、抑えた色調になります。



② 窓際のカウンター席／外の風景を眺めながら、気分転換もできます。



③ キャレル席／集中するための個人席です。 ④ 雑誌書架／これまで閉架に配置していた学術雑誌も自由に閲覧できます。

CONCEPT

サイレントゾーン

4階～6階はサイレントゾーン。
これまでの、図書館機能を踏襲し、さらに、保存機能を大幅に拡大しました。各種資料の利用、そして、静かに学習する閲覧席を多数配置しています。



電動集密書架

2階～6階西側に配置された、電動集密書架。出版年の古い資料を中心に配置しています。旧図書館の閉架書庫に収蔵していた資料も多数配置されています。利用者が直接、手に取り利用することが可能になったことで、開架の収蔵資料冊数が大幅に増加しました。



貴重書庫

明治期以前の和書、1850年以前の洋書を中心として、収蔵しています。キリスト教関係を中心として、多くの貴重資料が配置されています。室内は、常に温湿度管理を行うことが出来る設備が整えられています。これらの資料は、順次展示や解説を行っていく予定です。



出納ステーション



マイクロ書庫



学術雑誌コーナー



休憩スペース

自動書庫

7階には、約80万冊を収蔵可能な自動書庫があります。普段入ることは出来ませんが、OPACから出庫請求をすると、1階又は4階の出納ステーションへ資料が自動的に搬出されます。比較的情報の検索が可能な、製本和雑誌や近年出版された資料を収蔵しています。

